

ハイサイ
沖縄琉球菓子
鶏卵餅
(ちいるんこう)

今回は、琉球菓子「鶏卵餅（ちいるんこう）」の紹介です。琉球国は約四五〇年の歴史を持ち、中国や東アジア諸国と交易を行い、繁栄しました。そのなかで独自の文化の発展を遂げてきたのですが、琉球菓子もまたそのひとつです。

琉球国時代、禁制されていた真宗信仰の発覚により、流刑に処された那覇士族の仲尾次政隆（なかおしせいりゅう）に関する「『仲尾次政隆翁日誌』の翻刻と紹介」（琉球真宗研究会）の中で、流刑人と現地の人々の間でたびたび物品が交換され、その中には菓子類も含まれていたと思われる表記が見て取れます。そこから、琉球国ではどのような菓子が食され、嗜まれていたのか、調べました。

現在、沖縄県内において、鶏卵餅を製造・販売している店舗は極めて少なく、そのなかで琉球王府の調理人の流れをくむ「有限会社 新垣菓子店」の新垣正枝さんにお話を伺いました。

琉球の王府に仕える調理人は「包丁人（ほうちようにん）」とよば

れ、尚瀬王・尚育王・尚泰王の三代に仕え、中国からの使者をもてなしたり、王国で執り行われる儀式の際にそ



鶏卵餅（ちいるんこう）

の腕をふるいました。包丁人は日本や中国に向いて学び、琉球菓子も和唐七（日本三割、中国七割）といわれる影響を受け、味やうつくしさを探求してきました。

琉球処分によって琉球国が併合されると、包丁人も宮中を追われ、那覇に残った士族たちの屋敷で行われる法事や祝い事に出張するというかたちで技

術を継承してきました。それでも琉球菓子は、当時二〇〇種あったものが、現在では一〇種ほどしか残っていないといえます。

そんな歴史のある琉球菓子の一つ、鶏卵餅。その名の通り、卵をふんだんに使い、赤く染めた落花生と、きつぱん（柑橘類の皮などを砂糖で煮詰め細かく刻んだもの）で彩を加えた蒸し菓子です。

おもに祝いの際に食されたり、贈答用の品として親しまれています。「ちんすこう」のようにラードをつかわずに作られるので、素朴な甘さと、どこか懐かしさを感じる風味です。お茶やコーヒートとも相性がよく、朝食にもぴったりです。

カステラのようにカットしてそのままいただくのが定番ですが、新垣さんのおすすめは、トースターかフライパンで表面を焼き、バターをのせていただきます。外はサクサクでバターの塩味とあいまって「琉球パンケーキ」といった感じです。月に数回の製造とのことですが、オンライン販売もされていますので、気になる方はご検索ください。



【沖繩愛楽園で 教員向け講座】

八月八日、ハンセン病問題と差別の歴史を学び、教育現場での実践に活かすことを目的とした教員対象の講座が、名護市の沖繩愛楽園で開催された。

和泉真蔵医師の講義では、ハンセン病に関する専門的な知見に加え、「感染しにくいから差別してはいけない」という言説が「感染するなら差別してよい」と誤解されかねない危うさが指摘された。元患者家族による講話や園

内のフィールドワークも行われ、多角的に学びを深めた。

江連恭弘氏の進行による小底京子氏の講座では、ご本人の体験が語られた。「急に終わった青春」。高校二年で発症し、愛楽園に入所することになった当時の出来事、そしてその後、長い時間をこの場所です歩み続けてこられたお話を聞いた。参加者の一人は、かつて高校生だった頃の自分自身や、女性として重ねてきた時間が重なり、胸が詰まったと語った。

【お盆の「道ジユネー」 みち

沖繩のお盆は旧暦で行われる。今年は九月四・六日に各家庭で行われた。また、その期間に合わせて、県内各地で「エイサー」や「道ジユネー」が行われた。

「エイサー」とは、歌や三線に合わせて太鼓を叩き、踊る伝統芸能で、六月頃から各自治体で練習が始まり、夕方を過ぎると、運動場や練習場所から太鼓の音が鳴り響く。これは沖繩の夏の風物詩の一つである。

そして、踊りながら各地域を練り歩くのが「道ジユネー」だ。道ジユネーは演者が練り歩くだけではなく、観客も一緒に移動する。同じエイサーでも踊りや、衣装が団体によって異なり、エイサーファンは「お目当てのエイサー団体」があるようで、「掛け声がいい」「人数が多く迫力がある」「動きがそろっている」など、観る側にも楽しみがある。

また、各地で「エイサー祭り」が開催され、日頃の練習の成果を披露する。コロナ禍の間に活動を休止していた団体も、今年から活

これは過去の問題ではなく、これからの時代を担う人々にこそ伝えていくべきことだと強く感じた。



園内のフィールドワークの様子

動を再開しており、沖繩の夏を盛り上あげている。



宜野湾市のエイサー祭り

「仏教との出会い」

照屋 良太 沖繩県在住
那覇市首里出身

私の仏教との出会いは昨年の二月頃でした。六年前にとっても身近な人を亡くし、人生に深い絶望をいだきながら、なんとか日々の仕事や生活をこなすだけの毎日を過ごしていました。

その時期に、働いてる会社の倒産危機が訪れ、また絶望で挫折しそうにもなりましたが、今苦しんでいる自分達を何とか励ますものはないかと探していたところ、インターネットを通じて仏教を知りました。そして、自分自身の行動や心の在り方が、今の苦難の状況を作っていることに改めて気づかされ、「今、生きている自分」こそが仏教を聞かねばならないと思い返した時、心に晴れやかなものを感じました。

そして仏教をもっと聞きたいと思い、東本願寺沖繩別院で毎週土曜礼拝を行っていることを知り、参加してみました。元々宗教には不信感があったので、壺を買わされないか心配もしましたが（笑）、毎週通っているうちに、浄土真宗や親鸞聖人の教えに触れ、グリーンフケアの会にも参加することによって、亡き人にも自分にも、向き合えるようになりました。

今では前の会社を退職し、新会社を立ち上げて、お内仏をお迎えし、毎日念仏申しながら、あらたな気持ちで仕事や人生にいきなすことができます。

これからも土曜礼拝での聞法や、周りの同朋の人たちとの繋がりが、学びを大事にし、南無阿弥陀仏のいわれや、仏教を伝えてきた人たちの歴史を学ばせていただきたいと思います。宜しくお願い致します。